

県立歴史館「出前講座」開催

茨城新聞 2023年(令和5年)10月31日 火曜日

史料の読み解き方学ぶ 日立北高で出前講座



史料を読む思考力を身に付けようと、日立市川尻町の県立日立北高(内桶二郎校長)で26日、県立歴史館の職員が講師を務める出前講座が行われた。受講した2年生72人が史料を読み

解く手順や方法を専門家から学んだ。

講座は「日本史探究」の授業の一環で、同館主任研究員の山縣創明さん(42)が「教科書と歴史学のあいだ」と題し講義した。山縣さんは教科書について「必ずしも正しいとは限らない」と指摘。聖徳太子の呼称や鎌倉幕府の成立時期が変わったことなどを挙げ「研究が進めば内容は変わる。批判的に物事を見る力が大切」と呼びかけた。

また、史料を読み解く方法として、文書や花押(サイン)の真偽、紙の素材な

どを文理融合で分析し、仮説を立てていくと手順を説明。その上で「ただの暗記ではなく、想像力が必要」と力説した。

例として「源実朝下文」を紹介。山縣さんは字の丁寧さ、頼朝の花押との類似性、上質な紙を使っていることなどから鎌倉幕府の公文書だと推測できると解説し、生徒は史料の活用方法を学んだ。

秋葉実乃梨さん(16)は「科学的な観点からも歴史を研究しているのが分かった。史料を読み解く力は他の分野でも生かせる」と語った。(高田尚輝)

史料について解説する県立歴史館主任研究員の山縣創明さん＝日立市川尻町

茨城新聞 2023.10.31 より転載

10月26日(木)、本校卒業生の県立歴史館主任研究員 山縣創明 先生をお迎えして、2年生の「日本史探究」選択者を対象に、出前講座を開催しました。

テーマは ～教科書と歴史学のあいだ～ として、教科書の記述の背景にある歴史研究の実際とその魅力についてお話いただきました。史料を内容だけでなく、形式や紙質などの科学的分析も交えながら、多角的に読み解き、そこから仮説を立てる歴史学の手法や、その過程で必要な歴史的思考を身につけることの意義を、後輩たちに向けて熱く語ってくださいました。

歴史学は、本来、想像力を要する学問であり、思考力を駆使して批判的に見る視点も必要というお話は、生徒たちの印象に強く残ったようです。山縣先生ありがとうございました。